

第12回 落語 in おおや！全国素人名人会 出演者紹介

春乃 そよかぜ (はるの・そよかぜ)



本名、田邊颯花(たなべ・そよか)。たんたん落語笑年団に所属。和田山ジュピターホールでの「たんたん落語会」、豊岡市民プラザでの「ふれ愛亭」、出石永楽館での「わいわい亭」などにレギュラー出演。老人会や敬老会の人気者。弘道小学校5年生。

柱 笑福 (はしら・しょうふく)



本名、柏岡福夫(かしおか・ふくお)。1956年、徳島県生まれ。マツダ自動車会社勤務。2年前に初めての還暦を迎え、今は再雇用で同社に勤めている。44年前にマツダで落語研究会を作り、現在では、広島演芸協会(会員20名)の副会長。この会の定期寄席「話芸に親しむ」は112回を迎えている。

春歌亭 丹馬 (しゅんかてい・たんば)



本名、田中久典(たなか・ひさのり)。1953年、兵庫県生まれ。元高校教員。27年前に但馬・丹波のアマチュア落語家で作る「たんたん落語会」を結成し、地元各地で定期寄席を開催しているほか、敬老会、高齢者学級、PTA総会、各地区の文化祭など、あちこちに出演。今年から笑福亭鶴笑さんとのプロ・アマ共演の落語会を始めた。また、出石永楽館での「全国子ども落語大会」の事務局長もつとめる。

竜宮亭 無眠 (りゅうぐうてい・むいみん)



本名、井上信行(いのうえ・のぶゆき)。1964年のオリンピックイヤーに神戸で生まれる。技術系のサラリーマン。23年間の岐阜生活の間に「楽語の会東海支部」を立ち上げ、名古屋を中心に広く公演数を増やし、東海地区での活動を確立する。現在は兵庫県明石市在住。持ちネタの数の豊富さにはプロも舌を巻く。

千里家 圓九 (せんりや・まるく)



本名、西本文洋(にしもと・ふみひろ)。1968年、大阪府生まれ。豊中市職員。「高石落語集団パンセの会」と「社会人落語集団天狗の会」に所属。落語だけでなく、笛・太鼓も器用にこなし、名ピラの寄席文字も書く。「ポーっとしてたら上方社会人落語連盟代表に就任し、3年目になりました」と、ご本人は仰るが、名実ともに社会人落語界の実力者とみんなが認めている。

芸乃 虎や志 (げいの・こやし)



本名、枝廣篤昌(えだひろ・あつまさ)。1962年、広島県呉市に生まれるが、すぐに関東に転居。ジャイアンツファンに囲まれながらも、熱狂的なカープファン。現在、愛媛県四国中央市の豊岡台病院で病院長を勤める。精神科を専門とし、落語会の遠征に来たときには、一番笑わないお客さんを病院に連れ帰ろうとするので注意が必要。芸乃一門(約10名)を率い、定期的にプロやアマの落語会を開催している。

参遊亭 遊若 (さんゆうてい・ゆうじゃく)



本名、若田部真紀(わかたべ・まき)。年齢不詳だが、親が団塊世代らしい。埼玉県生まれ。グラフィックデザイナー。埼玉県内で落語会のボランティアをするうちに地元愛に目覚め、都内から埼玉に転職。全国あちこちの落語会に顔を出し、ついに憧れの但馬へ！感無量。遊三の実践落語教室、越谷サンシティ落語研究会、東京アマチュア落語研究会、楽語の会東海支部など6つの会に所属。←八方美人。

千里家 一福 (せんりや・いっぷく)



本名、土井道渡(どい・みちと)。1984年、大阪府生まれ。大阪でシステムエンジニアとして働く傍ら、「高石落語集団パンセの会」、「社会人落語集団天狗の会」に所属。進学した関西大学の落研(落語大学)で三味線に出会い、寄席囃子の魅力に取り憑かれる。年間50公演以上もの落語会に顔を出し、三味線を弾いている。太鼓は迷探亭小ん南(たんたん落語会)ほか、笛は千里家圓九。